

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】平成 18 年 6 月 8 日 (2006.6.8)

【公表番号】特表 2005-524030 (P2005-524030A)

【公表日】平成 17 年 8 月 11 日 (2005.8.11)

【年通号数】公開・登録公報 2005-031

【出願番号】特願 2003-588095 (P2003-588095)

【国際特許分類】

F 1 6 C 33/78 (2006.01)

E 0 2 F 9/12 (2006.01)

F 1 6 C 19/38 (2006.01)

F 1 6 C 19/52 (2006.01)

F 1 6 C 33/48 (2006.01)

F 1 6 C 33/58 (2006.01)

F 1 6 C 33/76 (2006.01)

【F I】

F 1 6 C 33/78 Z

E 0 2 F 9/12 Z

F 1 6 C 19/38

F 1 6 C 19/52

F 1 6 C 33/48

F 1 6 C 33/58

F 1 6 C 33/76 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 4 月 13 日 (2006.4.13)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

外輪と、

ドラグラインスイングシャフトと整合する大きさの中央ボアを有する内輪と、

各々が前記内輪と前記外輪との間に挿入された、第 1 の複数の球状回転要素及び第 2 の複数の球状回転要素と、

上側耐摩耗シールリングと、

下側耐摩耗シールリングと、

上側密閉リングと、

下側密閉リングと、

少なくとも 1 つの接触リップシールと、

少なくとも 1 つの接触リップシール保持器と

を備える、ドラグライン掘削機のドラグラインスイングシャフト用密閉球状ローラベアリング。

【請求項 2】

前記内輪及び前記外輪の各々が、第 1 の傾斜した軌道面及び第 2 の傾斜した軌道面を有し、前記第 1 の傾斜した軌道面は、前記第 2 の傾斜した軌道面から間隔をあけて配置され、そして、前記軌道面に対して反対向きに傾斜しており、前記第 1 及び第 2 の軌道面の各

々は、前記第 1 及び第 2 の複数の球状回転要素の曲率と同一の曲率を有する、請求項 1 に記載の密閉球状ローラベアリング。

【請求項 3】

前記下側耐摩耗シールリングと前記内輪との間、及び、前記上側耐摩耗シールリングと前記内輪との間がロック係合されている、請求項 2 に記載の密閉球状ローラベアリング。

【請求項 4】

前記上側耐摩耗シールリング上に配置され、前記上側耐摩耗シールリングの前記第 1 のロックショルダに動作的に係合しこれに固定されるように構成された第 1 のロックオフセットをさらに前記内輪の前面に備え、そして、前記下側耐摩耗シールリング上に配置され、前記下側耐摩耗シールリングの前記第 2 のロックショルダに動作的に係合しこれに固定されるように構成された第 2 のロックオフセットをさらに前記内輪の後面に備える、請求項 3 に記載の密閉球状ローラベアリング。

【請求項 5】

前記第 1 及び第 2 のロックショルダの各々が、環状リップ、第 1 のオフセット、第 1 の環状溝、第 1 の環状面、及び第 1 のオフセット面を備え、そして、前記第 1 及び第 2 のロックオフセット各々が、第 2 の環状リップ、第 2 のオフセット、第 2 の環状溝、第 2 のオフセット面及び前面を備える、請求項 4 に記載の密閉球状ローラベアリング。

【請求項 6】

前記下側密閉リングの端部と前記少なくとも 1 つの接触リップシール保持器との間に、前記フランジ先端部と前記少なくとも 1 つの接触リップシール保持器との間に接触を起こすことなく、前記内輪と前記外輪との間の軸方向位置ずれを許容するための隙間がある、請求項 1 に記載の密閉球状ローラベアリング。